



砕氷艦『しらせ』長崎寄港支援

5年ぶり長崎港に寄港。2日間の来場者数、11,000人超え!



■早朝から大勢の来場者



■甲板にて南極の石とヘリコプター展示



■長崎ペンギン水族館へ南極の氷を贈呈

長崎地本だより

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
TEL. 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式 Twitter



長崎地本公式 Instagram



■5年ぶり長崎港出島岸壁に寄港した砕氷艦しらせ



■陸上自衛隊による装備品展示



■海上自衛隊による広報ブース

自衛隊長崎地方協力本部は、今後とも長崎県内の多くの県民に自衛隊に対する理解の深化と促進を図り、一人でも多くの志願者の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めていく。
(募集課)

10日から11日の間には、海上自衛隊佐世保地方総監部(総監 西成人 海将)及び海上自衛隊第22航空群(群司令 鈴木克哉 海将補)並びに陸上自衛隊第16普通科連隊(連隊長 福添哲生 1等陸佐)の支援を受け、一般公開を実施した。砕氷艦しらせを目的の当りとした来場者は「大きい!」「南極までの航海は何日かかるのですか?」と砕氷艦しらせと海上自衛隊への興味を深め見学している様子であった。なお、一般公開2日間における来場者数は1万1千609名にのぼった。

入港日の9日には、長崎防衛協会(会長 渡邊悦治氏)及びみなとのみえる丘にある大浦保育園園児25名の出迎えを受けるとともに、しらせ艦長からは長崎ペンギン水族館(館長 田崎智氏)へ南極の氷が贈呈されるなどの歓迎行事が実施された。砕氷艦しらせの長崎港出島岸壁への寄港は平成29年9月16日以来5年ぶりである。

この祭りは、対馬市でも大きな祭りの一つである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により昨年までは花火のみの実施、一昨年は中止であったため今年は3年ぶりの通常開催となり、両日とも天候にも恵まれ様々な催し物が行われ大勢の人で賑わった。

対馬駐在員事務所は、募集広報ブースを開設し、VR体験やアンケートなどを行った。VR体験は人気があり、子供だけでなく大人も体験して楽しんでいた。また、アンケートは中高生を対象に行い、多くの回答、意見を得られた。

対馬駐在員事務所は、引き続き地域主催の行事への積極的な参加を通じ、島民の自衛隊に対する理解の促進を図り志願者や入隊者が増える様に所員一同、募集広報活動により一層取り組んでいく。
(対馬駐在員事務所)

国家を守る、公務員。
自衛官募集中



■VR体験コーナーは子供にはもちろん大人にも人気!



■募集ブースを開設

諫早市「一水会」竹松駐屯地研修支援



■駐屯地研修記念写真



■駐屯地研修(旧海軍施設研修)

自衛隊長崎地方協力本部諫早地域事務所(所長 我謝良彦2等陸尉)は10月3日(月)、諫早市「一水会」(会頭 黒田隆雄 氏)会員27名の竹松駐屯地研修における引率等を実施した。

「一水会」は、1957年7月に発生した諫早大水害時、自衛隊の復興支援を受けたことに伴い、その年の10月、地域社会を良く理解し、会員の円滑な職務遂行に資することを目的として結成された会であり、諫早市内高校、各企業及び公安職の代表等で構成されている。

毎年、駐屯地等研修を実施し、自衛隊及び自衛隊の任務の理解を深められている。

研修では竹松駐屯地司令(藤川貴章2等陸佐)から部隊の概況説明を受けたほか、体験喫食、旧海軍施設研修、広報資料館見学を実施した。

研修参加者からは「駐屯地の歴史や部隊の任務等、理解を深めることができた。体験喫食では「さすが自衛隊の食事は量が多い。」など喜びの声があがった。

諫早地域事務所は市内の協力団体及び市民の皆様と理解を深めていただき地域住民と自衛隊の「かけはし」となるよう引き続き積極的な広報活動に努めていく。

(諫早地域事務所)



■体験喫食



■駐屯地研修(旧海軍施設)見学



■広報資料館研修



■警備犬訓練見学



■体験喫食(メニューはトルコライス)

自衛隊長崎地方協力本部 佐世保出張所(所長 松本良輔1等海尉)は、8月24日(水)から26日(金)の間、海上自衛隊佐世保地方総監部の職場体験に参加する長崎県立佐世保中央高校の男子生徒2名を引率支援した。

24日は大村航空基地隊において、第22航空隊のヘリコプターSH-60Kや大村航空基地隊の救難消防車IB型(グローストライカー)などを見学し、第22整備補給隊では、ボルトの脱着防止に必要な安全線の作成など整備体験を実施した。また、操縦士、地上救難員、航空機整備員との懇談を行った。

25日は佐世保警備隊において、基本教練の体験や警備犬訓練の展示を見学し、佐世保基地業務隊では体験喫食や佐世保史料館を見学した。

26日は佐世保教育隊において一般曹候補生及び自衛官候補生の修了式を見学し、佐世保地方総監部では、佐世保鎮守府海軍防空指揮所跡、補給艦「はまな」及び護衛艦「あしがら」の見学をするなど非常に充実した3日間であった。

装備品に直接触れることにより、自衛隊に対する関心が増すとともに、説明する自衛官の情熱が伝わる様子が見取れた。

参加者からは、「今まで艦艇部隊の存在しか知らなかったが、航空部隊についても多くの職種があることを知れて良かった。史料館や海軍防空指揮所跡の見学では、「学校授業の歴史で触れた内容をより深く学習できて良かったので、もう一度参加したい」との声が挙がった。

佐世保出張所は、今後も各部隊と連携し、職場体験を通じて学生に自衛隊に対する理解の深化を図り、自衛隊募集に尽力する。

(佐世保出張所)



■護衛艦「あしがら」見学



■SH-60K見学

海上自衛隊 職場体験





3年ぶりに任期制隊員 合同企業説明会を開催

自衛隊長崎地方協力本部は、引き続き任期制隊員に対する援護業務の魅力化、援護希望率の向上及び離職防止施策を含めた就職指導・職業訓練等の充実を図り、隊員が後顧の憂いなく職務に邁進できるよう就職援護希望者の希望と雇用情勢に応じた就職の援助に努めていく。(援護課)

また、会場に自衛隊援護協会による就職相談ブースと予備自衛官室による予備自衛官等制度説明ブースを開設したところ、多くの参加隊員が空き時間を活用し、熱心に相談する姿が見受けられた。

自衛隊長崎地方協力本部は、引き続き任期制隊員に対する援護業務の魅力化、援護希望率の向上及び離職防止施策を含めた就職指導・職業訓練等の充実を図り、隊員が後顧の憂いなく職務に邁進できるよう就職援護希望者の希望と雇用情勢に応じた就職の援助に努めていく。(援護課)

本説明会は、長崎県内での再就職を希望する任期満了退職予定隊員を対象とし、隊員と県内企業との面談により直接企業情報等を入手させ、円滑な再就職に結びつけることを目的とするものである。自衛隊長崎地方協力本部が行う任期制退職自衛官に対する再就職支援施策の最大のイベントであり、今回は3年ぶり21回目の開催となり、58社の企業と陸上自衛隊海上自衛隊の任期満了退職予定隊員18名が参加した。

説明会に先立ち、自衛隊援護協会福岡支部長と自衛隊長崎地方協力本部部長からの参加企業に対する挨拶の後、予備自衛官室長から予備自衛官等制度に関する説明と招集訓練参加についての依頼が行われた。

参加隊員と企業の面談は、1回35分間で6回実施され、隊員は希望する企業ブースを訪れ、職務内容、就業時間、賃金、福利厚生等の求人内容について説明を受けつつ疑問点を質問し、自衛官らしく節度ある態度で真剣に面談に臨んでいた。



説明会場における面談風景



参加企業に対する予備自衛官等制度説明

高校3年生を含む 秋の採用試験開始

今後、多くの募集対象者情報の提供と自衛官を志す志願者を募集課一同お待ちしております。(募集課)

自衛隊長崎地方協力本部(本部長 江上昌利 1等海佐)は、9月15日(木)から29日(木)の間、県内10カ所において令和4年度第2回自衛官候補生試験及び令和4年度第2回一般曹候補生試験を実施した。

(この9月の採用試験から高校3年生も受験が可能となり、年内で最も受験者が多い試験かつ自衛隊長崎地方協力本部としても部員一丸となり力の集結が必要な一大行事である。

自衛官候補生試験は、第1回目同様WEB試験を実施し、県内から280名が受験、一般曹候補生試験は従来通りの筆記試験と一部WEB試験を併用し、県内から273名が受験した。受験者の多くは、自衛官候補生試験及び一般曹候補生試験の2種目を2日連続で受験しており、受験後は「全力でやりぬいた達成感」と「やっと終わったという安堵感」に溢れていた。

今後、一般曹候補生は12月に第3回目の試験を実施する。また自衛官候補生は、12月に第3回目の試験を実施し、更に1月、2月にも試験を実施する予定である。



一般曹候補生試験 (長崎県立大学佐世保校)



一般曹候補生試験 (自衛隊長崎地方協力本部)

任務完遂! 臨時勤務 お疲れ様でした

岩田士長、 これからも頑張ってください!



7月11日(月)から9月30日(金)までの間、第22整備補給隊第22機側整備隊 岩田万侑海士長が諫早地域事務所での臨時勤務を終了し、原隊復帰した。岩田士長は募集対象者への学科試験指導、各高校等への説明会支援等、積極的に任務を遂行し、諫早地域事務所の募集広報活動に大きく貢献した。

岩田士長は、「地本勤務は、民間の方々と多く関わられる職場で部隊勤務では経験できない多くのことを学ぶことができました。また、リクルーター等貴重な経験を体験でき本当に充実した勤務でした。」と感想を述べた。勤務最終日には所内でお別れ紹介行事を実施して所員全員で岩田士長を見送った。

岩田士長、諫早地域事務所勤務本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。(諫早地域事務所)

**永年のご活躍
お疲れ様でした**

相浦駐屯地援護センター
准陸尉 山中正一郎

令和4年9月26日付退官

定年退職

◎大村地域事務所から
海上自衛隊大村航空基地
第22整備補給隊へ
海曹長 中尾真二

◆転出 令和4年8月29日付



ブルーインパルス 展示飛行支援

西九州新幹線(長崎～武雄温泉)開業に県内外から12万人来崎!

■22日の予行飛行「ポイントスター」を鍋冠山から撮影



■本番23日展示飛行「グランドクロス」を稲佐山から撮影



■水辺の森公園会場にて写真撮影



■22日の予行飛行「サンライズ」を長崎県庁から撮影



■22日の予行飛行「サクラ」を自衛隊長崎地方協力本部屋上から撮影



■ブルーインパルスは子供たちにも人気



自衛隊長崎地方協力本部(本部長 江上昌利1等海佐)は、長崎県の要請により9月22日(木)から23日(金)の間、西九州新幹線(長崎～武雄温泉)開業イベントを支援した。

22日は晴天に恵まれ、航空自衛隊第4航空団(司令 増田友晴 空将補)第11飛行隊(ブルーインパルス)6機による予行飛行が実施され、長崎駅周辺は多数の見学者で溢れた。

開業日の23日は雨模様となり、展示飛行の実施が危ぶまれたが展示飛行は行われ西九州新幹線開業を祝福した。また、イベント会場の一つである長崎水辺の森公園では、西部航空方面隊(司令官 南雲憲一郎 空将)による募集広報と第11飛行隊パイロットによるサイン会も実施され大盛況であった。人気のブルーインパルスを見ようと約12万人におよぶ見学者が長崎市内各地を訪れた。

なお、長崎県におけるブルーインパルスの飛行は、平成26年10月15日「長崎がんばらばらば国体」において諫早市上空の飛行から2度目であるとともに長崎市上空は初めてである。

ブルーインパルスの展示飛行を目の当たりにした長崎県民からは、「長崎市内にブルーインパルスが飛ぶなんて感激!」「ありがとう」など喜びや感謝の言葉をいっていた。

自衛隊長崎地方協力本部は、長崎県内の多くの県民に航空自衛隊に対する理解の深化と促進を図り、航空自衛官及び航空学生有志願増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めていく。

(募集課)

■22日の予行飛行「オリジナル・レベル・キュービット」が長崎港上空にあざやかに描かれた



■自衛隊広報ブースは大盛況



■ブルーインパルス隊員によるサイン会

海上自衛隊佐世保音楽隊による平戸市文化センターでの演奏は11年ぶりの開催であった。また、平戸市立平戸中学校吹奏楽部16名の演奏参加もあり自衛隊との交流を深めた。

佐世保出張所は、演奏会に併せて自衛隊募集案内窓口を開設し、自衛官募集に興味を持った多くの方が募集案内窓口を訪れた。

来場者数は約1000名に達し、参加した方々から「非常に良かった!感動した!また行きたい!」との言葉が飛び交っていた。

佐世保出張所は、今後もあらゆる機会を通じて自衛隊の魅力を発信し、一人でも多くの方々に自衛隊の理解を深めていただくとともに自衛官募集に尽力していく。

(佐世保出張所)



■自衛官募集広報ブースが好評!

海上自衛隊 佐世保音楽隊 演奏会 in 平戸